

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	教室員が成長を実感できる,働きがいのある教室を目指して
別タイトル	We aim to create a rewarding department where medical staff can experience growth: Department of Neurology, Toho University Faculty of Medicine
作成者(著者)	平山,剛久
公開者	東邦大学医学会
発行日	2022.03.01
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 69(1). p.64 65.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	教室(診療科)紹介
著者版フラグ	publisher
JaLCDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2021 045
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD79748270

教室(診療科)紹介(129)

教室員が成長を実感できる、
働きがいのある教室を目指して

神経内科学講座(大森)

教授 : 狩野 修
講師(病院) : 川辺清一
講師 : 平山剛久

教室の歴史

東邦大学における脳神経内科の歴史は、昭和35年に設立された日本神経学会より古く、昭和30年より大森病院第二内科に神経グループが存在していました。当時の教室のパイオニアであり“里吉病”の里吉栄二郎先生、田崎義昭先生(初代北里大学神経内科教授)、木下真男先生(大橋病院

第四内科教授)、古和久幸先生(二代目北里大学神経内科教授)など、日本神経学会を牽引してこられた重鎮が多数在籍しておりました。昭和42年から大橋病院第四内科に診療の場を移しましたが、平成15年4月に大森病院に神経内科が創設され、岩崎泰雄先生が初代教授、令和元年より狩野修先生が教室を主宰しております。

個別の神経疾患をベースとした診療体制

コロンビア大学の教授でおられます三本博先生(昭和43年本学卒)や先代の岩崎泰雄教授の流れから、筋萎縮性側索硬化症(ALS)の研究と診療をメインとして活動してきました。三本博先生は世界のALS診療ガイドラインのchairもされており、岩崎教授、狩野教授も日本の代表として、ガイドライン作成に携わってきました。平成29年より治験や臨床研究のプラットフォーム機能も兼ね備えた本邦初のALS専門外来(通称“ALSクリニック”)を開設しました。令和2年には、北米のALSコンソーシアム(NEALS)より、アジア・オセアニア地区初のALSクリニックとして承認され、研究、治験の拠点病院としての活動に参画しております。特にALS治験症例数においては、世界6位(田辺三菱製薬資料)にランクされるまでに成長しました。また当科では、名古屋大学の環境医学研究所と同薬学部と共同研究を実施しており、今年度、名古屋大学の山中宏二教授を代表とした当教室との共同プロジェクトが、AMED



(精神・神経疾患メカニズム解明プロジェクト)に採択されました。狩野教授と私がALS、渋川茉莉先生が認知症の分野を担当しています。さらに京都大学井上治久教授による日本発iPS創薬からのALS治療薬開発チームにも加えて頂き、AMED(臨床研究・治験推進事業)からの研究資金も受け入れております。

また、ALSで実践してきた患者中心のone-stop shop型ALSクリニックを他の疾患にも応用すべく、令和3年4月より、パーキンソン病・運動障害疾患外来(通称:PDクリニック)も開設し、川辺清一講師と蝦名潤哉先生が担当しています。

臨床疑問を研究へ

毎週水曜日にラボミーティングを開催し、普段の診療で生じた臨床疑問などを研究に結びつけ、研究計画立案になるようディスカッションをしています。各人研究テーマがあり、進捗状況を隔週で報告しなければならないため大変ですが、逆にこのラボミーティングがペースメーカーの役割も担っております。教授からコンセンサスが得られた研究課題は、研究費、投稿料、英文校正費用から学会参加費まで、すべて教室負担になるため、積極的に研究に取り組

める環境があります。また世の中に役立つような研究や新たな価値の創造を目指し、ベンチャー企業との連携や東京工業大学とのフィールドワークにも積極的に参加しています。

学生、研修医教育

教授回診において、全員で病室を訪室するスタイルではなく、カンファレンス室に患者さんに来てもらい、教授が診察する独特の回診を行っております。また、2020年度に京都大学のFCME(Foundation Course for Medical Education)プログラムを履修、修了した柳橋優助教が中心になって、教育プログラムを構成しています。今後のデジタル教育推進、アクティブラーニングの導入などを積極的に敢行し、教育分野でも貢献したいと考えております。

当科はスタッフ数5名と、大学病院の脳神経内科学の講座としては非常に小さな教室ですが、働きがいのある教室です。各自が成長を実感できるような環境が整備されていますので、学生や研修医の先生はいつでも見学にいらしてください。何卒よろしく願いいたします。

(平山剛久)

DOI: 10.14994/tohoigaku.2021-045